

町史だより



『西原町史』発刊に向けて⑤

西原町立図書館町史編集係では、現在「資料にみる西原（仮題）ビジュアル版」を編集すると同時に、西原の歴史年表も作成しています。今回の町史たよりでは、一九六八（昭和四十三）年に起こった主な出来事を紹介したいと思います。

一月七日 中部製糖工場に集塵装置を設置

製糖期になると中部製糖工場（第一・第二工場）から吐き出される煙で家の中が汚れたり、洗濯物ののりつけができな

いなど、周辺住民を悩ませていました。

一九六六（昭和四十二）年、西原村では

煤煙防止対策特別委員

会・煤煙被害防止対策

協議会などを設置し、

中部製糖に抗議するとともに損害



写真1 第二工場の集塵装置

賠償を要求しました。工場側は、一九六八年期の製糖期から集塵装置を設置し、煤煙被害の防止に努めました（写真1）。

一月二十日 西原村役所新庁舎の起工式

戦後、西原村役所は字与那城にありました（写真2・3）。西原村は永い間、新庁舎建設を問題にしていたが、一九六八（昭和四十三）年一月十日に新庁舎建設業者が決まり、二十日には新庁舎建設現場（嘉手苅）で起工式（地鎮祭）が行われました（写真4・5）。



写真4 起工式①



写真2 与那城にあった村役所



写真5 起工式②



写真3 村役所内の様子

五月二十日 「西原の塔」除幕式と慰霊祭

西原の塔は、日露戦争・第一次世界大戦・支那事変などの戦場で亡くなった英霊を祀るために一九四一（昭和十六）年頃「忠魂碑」と称して建立されたといわれています。その忠魂碑は沖繩戦で破壊され、一九五五（昭和三十）年七月に沖繩協会の援助と村民の奉仕作業及び寄付運動によって、「西原村慰霊塔」が建立されました（写真6）。その後、一九六八（昭和四十三）年三月に老朽化していた塔を修復、名前も「西原の塔」（写真7）と改め、五月二十日に除幕式と慰霊祭がしめやかに行われました。



写真6 西原村慰霊塔



写真7 西原の塔

九月二十九日 西原村役所が新庁舎へ移転



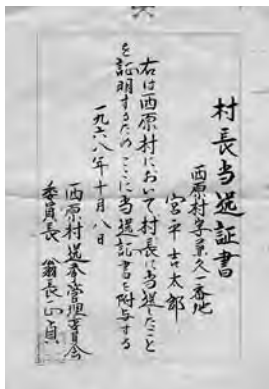
写真8 役所新庁舎（嘉手苅在）

旧役所（与那城在）から新庁舎への移転が完了し、九月三十日から行政事務が開始されました。新庁舎の建築総面積は七八

九、二八平方メートルあり、当時は屋上から西原平野を見渡すことができました。

十月六日 西原村長選挙で宮平吉太郎氏当选

西原村では戦後二十三年目にしてはじめて住民が村長を直接選挙で選びました。その時の投票率は九六、二パーセントで、ほとんどの住民が投票し、関心が高かったことがうかがえます。選挙の結果、宮平吉太郎氏が当選し、十月八日には当選証書が授与されました（資料1）。



資料1 村長当選証書

このように西原村（町）の過去の出来事をまとめることによって、改めて先輩たちの業績を知ることができます。また、これらのことから将来の街づくりのヒントが得られるのではないのでしょうか。

【参考文献】西原町「広報にしはら 保存版第1集」／中部製糖株式会社「中部製糖二十年のあゆみ」／西原町選挙管理委員会「西原町戦後選挙結果調」